11月 彩花新聞 233号

Monthly SAIKA Newspaper

2026年11月1日

代償の法則

朝夕の気温の差に紅葉の見ごろが気になる季節になりました。秋の山が紅葉する様子を山粧う(やまよそおう)というそうです。日本人の表現のすばらしさに感心させられます。
農民は、作物を作るために畑を耕します、種を蒔けば、作物は太陽の光を受けて成長し、実を結んで農民にそれを与えます。与えたら、必ず与えられる・・・これが「代償の法則」です。
そして、農民が大地に与えたのは一粒の種であっても大地から与えられる時は数十倍、数百倍になっています。それが「利益増加の法則」です。
彩花でもこの法則を大切にし、お客様に与えて、支えて喜ばれる仕事をしていきたいと思っております。



判断力

最近、スタッフの成長が目覚ましく、自ら判断して作業を進める姿勢が見受けられます。
お客様からも信頼をいただき、追加の仕事をいただく機会が増えていることに嬉しく思っています。
「営業をして下さい」とは一言も言っていませんが、スタッフとお客様との関係作りが新しい仕事に繋がっているようです。朝礼で伝えている「喜びの種まき」を通じて、お客様との関係構築が進んでいると実感しています。
また、スタッフは日報に仕事の気づきを記入しています、お客様とのやりとりから得た気づきを共有することでさらなる成長につながっていると感じます。情報をアウトプットすることで次の仕事にも活かされているようです。
今後もこれまで培った判断力と、スタッフ同士のチームワークを活かし、一層の成長を楽しみにしています。

今日からできるケア

◆食事◆

冷たいものは控えて、お茶などの温かいものを飲むように心がけましょう、それだけで胃腸を労わることができます。
また、体の中から潤う、温める力を目覚めさせるためには、ネギ、レンコン、長芋、牡蠣、キノコ類など、意識して食べるようにしましょう！

◇入浴◇

シャワーで済ませず湯船につかり、「湯気」をたっぷり吸込むことで、喉や気管が潤います。温かなお湯につかることで自律神経が心地よく整い、深く良質な睡眠が取れるようになります。
翌朝すっきりした気持ちで目覚められます！



１１月イベント情報

大相撲九州場所（福岡国際センター）

8日(日)～22日(日)
毎年11月、福岡国際センターで15日間にわたって行われる大相撲の本場所



白秋祭水上パレード（柳川市）

１日(日)～３日(火)
詩人・北原白秋の命日（11月2日）を偲んで、前日の1日から3日までの3日間開催されます

紅葉イベント

宝満宮竈門神社（太宰府市）
２１日(土)～６日(日)　ライトアップ
紅葉の見ごろは例年11月下旬～12月上旬、夜間ライトアップも行われます

九年庵（佐賀県神埼市）
１４日(土)～２９日(日)
国の名勝 「九年庵」 秋の一般公開
昨年から公開期間が9日間から16日間へ拡大

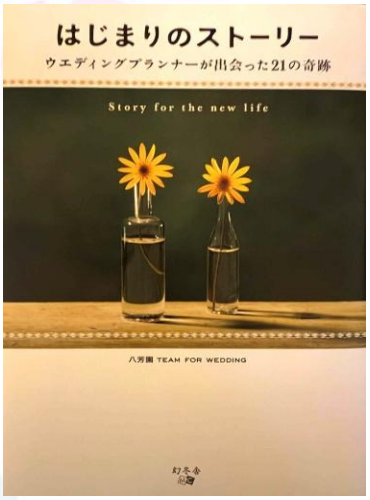
紅葉スポット

秋月城跡（朝倉市）・吞山観音寺（篠栗町）
勝山公園（北九州市）・英彦山（田川郡）

本当のおもてなしが現場で奇跡を生む

◆「サービスを超える瞬間」の、その先へ

以前、この新聞（2023年7月1日号）に「五つ星のおもてなし」という文章を寄せました。リッツ・カールトンホテル大阪の事例を通じて、お客さまが感動するのは、単に満足した時ではなく、
その人だけの「物語」が生まれた時だと書きました。
現場には「サービスを超える瞬間」がある。その瞬間を「奇跡」と呼びたいと思います。
最近、そんな思いを強くする一冊に出会いました。
八芳園＊の『**はじまりのストーリー　ウエディングプランナーが出会った21の奇跡**』です。
なかでも心に残ったのは、左手が不自由なお客さまへの、さりげない気遣いでした。
スタッフは料理長に頼み、ステーキをあらかじめ食べやすく切っておきました。
しかも、見た目には切れ込みが分からないように。お客さまは深く喜ばれ、
後に八芳園で結婚式を挙げ、何年たっても訪ねてくださる関係になったと
いいます。大がかりな演出ではありません。
「この方に、気兼ねなく食事を楽しんでいただきたい」
その思いが一皿に宿り、取引を超えたつながりの入口になったのです。



（＊）東京都港区白金台に所在する、1万2000坪の敷地内に庭園のある
レストラン・結婚式場。
2024年3月に天神の警固神社社務所ビルに
総合会場「THE KEGO CLUB by HAPPO-EN」を開設。

◆お掃除の向こうに、暮らしがある

お掃除の現場にも、そんな奇跡の種があるのではないでしょうか。とりわけハウスクリーニングは、
お客さまの暮らしの内側に入っていく仕事です。そこにあるのは、汚れた床や窓だけではありません。
家族の思い出や、日々の楽しみ、人には言えない心配事もあります。
例えば、棚に飾られた古い写真。その周りをお掃除する時、ただ物を動かして拭くのではなく、
「大切なお写真ですね。こちらに移してもよろしいですか」と一声かける、お客さまが語り始めたら、
少し耳を傾ける。それだけで、「物だけでなく、私の暮らしも大切にしてくれる人なんだ」という安心が生まれるかもしれません。
もちろん、親切のつもりで勝手に片づけたり、事情を聞き出したりするのは、おもてなしではありません。
私的な空間だからこそ、踏み込まない心配りも大切です。相手の気持ちを確かめながら、その人にとっての心地よさを一緒に探していく。
そこにこそ、マニュアルだけでは届かない仕事があるのではないでしょうか。

◆奇跡を育てる会社

奇跡とは、何も劇的な出来事ばかりではありません。「きれいになった」の先に、「気持ちまで軽くなった」
「あなたが来てくれてよかった」という言葉が生まれる。いつもの部屋が、明日を楽しみにできる場所になる。
そんな小さな変化も、暮らしのなかの確かな奇跡です。
そして、それをスタッフ個人の才能や頑張りだけに任せないことも大切だと思います。
現場の気づきを持ち帰り、仲間と喜び合い、迷った時には相談できる。「いい仕事をしたね」と認め合う
会社には、次の心配りが育ちます。「また、この人にお願いしたい」。継続する商いの根っこには、
こうした信頼があるのではないでしょうか。感動させようと力むより、目の前の一人を大切にする。
クリーン彩花の「他人には喜びの種まきをする」という理念は、その営みを言い表しているように思います。
本当のおもてなしが生む奇跡は、遠い五つ星ホテルだけの話ではありません。
今日、お掃除にうかがう、その一軒も待っているのです。（らく）